

研究ノート：

専門科目へのライト・アクティブラーニング (「橋本メソッド」)導入の試み

絹 川 直 良

2018年前期より担当する専門科目に「ライト・アクティブラーニング(「橋本メソッド」⁽¹⁾)」の導入を試みている。ここでは、専門科目導入にあたってカスタマイズした点や問題点を簡潔にまとめ、今後の展開への示唆に及びたい。

1. 導入までの経緯

2012年5月に開催された大学教育学会全国大会で、橋本勝教授⁽²⁾の発表に接したのがこのメソッドを知った最初である。本学経営学部では、2014年9月に向後千春早稲田大学教授を招いて反転授業を主なテーマとしてFD研修会を実施したが、その際、向後教授より「大福帳」の利用が伝えられた。向後教授より、橋本教授がほぼ同じ様式のを「シャトルカード」と呼び、「橋本メソッド」の構成要素として利用されていることを教えられた。

2017年6月、経営学部ではリーダーシップ開発研修を試験的に導入した。日向野幹也早稲田大学教授が、前任校の立教大学経営学部ではじめたプログラムを、株式会社イノベストに依頼して部分的、試行的に展開しているものである。入学直後からモチベーションを失う学生が増加していると思われたことから、その対策として試験的にはじめたものである。そこでは、権限を伴わないリーダーシップを学んでいるが、リーダーシップの構成要素をまとめ、①目標設定と共有、②率先垂範、③同僚支援をその3要素としている。

また、導入による効果として、「権限を伴わないリーダーシップ」についての理解向上と実践、アクティブラーニングやPBLを受け入れる素地を学生の側に創出すること、履修者が指導者となって後輩の指導に参加(新入生学外研修、初年次教育を通してのSA活躍も視野に)すること、および、アクティブラーニングを受け入れる素地作りを狙った。

しかし、仮に、アクティブラーニングを受け入れる素地を学生側につくっても、実際の授業が旧態依然としたままでは、リーダーシップ開発研修の効果も半減してしまう。

このような状況で、2017年11月、橋本教授にご相談し、同教授の授業を高岡および五福キャンパスの両方で参観した。プロジェクターを全く用いず、黒板に板書されて授業を進められていたのに驚いたが、学生達の競争心をくすぐり、その潜在可能性を精一杯引き出されていたのが印象的であった。さらに、(2018年4月に、再度、橋本先生の授業を参観<五福キャンパス>する機会を得たが、並行して、3年次配当の専門科目にライト・アクティブラーニングの導

入をはじめていた。ちょうど、授業開始直後で様々な迷いもあり、再度、参観させていただいた。

これに先立ち、2018年2月に公刊された新井紀子国立情報学研究所教授による「AI vs, 教科書が読めない子どもたち」（東洋経済新報社）に接し、高校生達の読解力低下の実態を確認することができた。実際に入学前教育他で同じテストを実施してみて、読解力が大きく低下していることを確認した。そこで、「外化」する方法として、レポート作成に代え、学生がペアを作りレジメを作成し実際にその内容にそって発表することを中核に据えることとした。これによって、より理解が深まり定着するのではないか。それまで、多くの知識を教員が伝えても学生にはその一部しか伝わらないように感じていた。試験（学生の多くはノート持ち込みを希望する）やそれに続く成績評価で苦勞するのであれば、この際、「橋本メソッド」導入に踏み切るべきと考えた。2018年度のシラバスもこの線で大幅に修正した。

2. 導入

2018年前期「国際金融」で導入した。学生に2名のペアを作らせるところは「橋本メソッド」と同じであるが、レジメ作成にあたっては、教科書プラス配付した資料の該当箇所を必ず参照するように求めたことが、導入時点で修正を加えた点である。

ただ、履修者は大きく減少した。シラバスに予め「橋本メソッド」を適用することを詳しく説明していたが、初回の授業での説明を聞いた段階で20名以上が履修をやめた。ただ、履修を続けた学生についてはより深い学びに成功したように思える。特に、「国際金融」では、リスク管理を取り上げる部分でケーススタディを行っているが、この場合、学生も準備しやすそうであった。

表 授業計画表

授業回数	授業日	エントリーシート締め切り日	その回の授業のテーマ	課題	参考箇所
6	5月25日	5月10日	外国為替相場はどのように決定されるか	ファンダメンタルズ分析について説明してください	教科書43-55ページ。
7	6月1日	5月17日	外国為替相場の決定とテクニカル分析	チャート分析について説明してください	同55ページ
8	6月8日	5月24日	外国為替市場の参加者と世界の主要外国為替市場	世界の主要な外国為替市場の中で出来高の多いのはどの市場ですか。その理由、背景は何ですか。	同70ページ
9	6月15日	5月31日	企業財務と外国為替 為替リスクをどう管理するか	輸出の場合を例にとり、外国為替リスクがいつ発生するのか説明してください	同91ページ
10	6月22日	6月7日	契約の通貨建て	輸出企業は基本的にどのような為替リスクを負いますか。円建てにすれば為替リスクを抑えることができますが、円建ての輸出を行っている例を実際に調べて見ましょう	『円建て輸出を行う企業の例』参照
11	6月29日	6月14日	企業財務と外国為替(2) 為替リスク管理のケーススタディ 輸出企業	輸出企業の抱えるリスクについて具体例を挙げて説明する	「ホンダの海外展開の考え方と為替変動への対応」を基本に、ホンダの直近の決算報告会などの資料を使ってまとめる
12	7月6日	6月21日	企業財務と外国為替(3) 為替リスク管理のケーススタディ 輸入企業	輸入企業の抱えるリスクについて、原油輸入を例にとり説明する	『大手石油元売りの例』参照
13	7月13日	6月28日	企業財務と外国為替(4) 多国籍企業のリスク管理ケーススタディ	多国籍企業のリスク管理について例を挙げて説明する	「グローバルトレジャリーセンター」の例

（－2018年5月25日－第6回時点で配付した授業計画表である。6-13回の授業のテーマを掲げ、そこでの課題を示しているが、一番右の列にある「参考箇所」の説明も参照し、指示に従って準備を行うことを求めている。）

結局、18名が単位を取得した。残念ながらこの中にはレジメを提出しないままの学生が7名含まれている。ただ、今回は移行直後でもあり、14回目実施のテスト結果に5回目⁽⁵⁾に実施した計算問題小テストの結果を加えて一定水準を上回り、本科目の到達目標達成と認められたことから単位を付与している。

なお、最終回に、記名式アンケートを実施したが、その結果は以下の通りである(カッコ内は回答数)。

● (問1) レジメを作成してエントリーするスタイルの授業には賛成ですか。

- ①強くそう思う (12)
- ②そう思う (11)
- ③そうは思わない (3)
- ④まったくそう思わない (1)

● (問2) 計算問題⁽⁵⁾を取り上げることに賛成ですか。

- ①強くそう思う (11)
- ②そう思う (14)
- ③そうは思わない (1)
- ④まったくそう思わない (1)

● (問3) 1に関連してペアで学習するスタイルに賛成ですか。

- ①強くそう思う (9)
- ②そう思う (14)
- ③そうは思わない (3)
- ④まったくそう思わない (1)

◆その他自由コメント：

- ▶ 就職活動と並行しながら授業を受け、出席も少なく、友人と情報を交換しながらレジメを作りましたが、駄目だったので、テストで計算問題を頑張りました。
- ▶ 国際金融を学んだことがなかったので(注：2年次配当科目の履修を条件としているが、4年生については例外を設けた)、難しかったけど、理解出来たら面白いなと思いました。ありがとうございました。
- ▶ 授業がすごく少人数だったので、分からない所はすぐに聞くことができよかったです。グループに入って授業を受けるというのも他の授業にはないので、すごくよかったです。
- ▶ 就活と並行して授業を取ることは少し難しいところがありましたが、なんとか最後までやり抜くことができました。ありがとうございました。
- ▶ 問1について。グループでやる場合は賛成。ひとりだと都合、時間が合わないと感じた。
- ▶ エントリーして発表するというのを初めて授業でやったので、新しい感じが面白かった。

- ▶ 問3 友達がいるならよいです。セーフティネットシステム（注：14回目に実施したテスト他を指す）は嬉しいです。
- ▶ レジメを作成するのは大変でし、発表する人も限られているので（注：「発表する学生が限られている」と思われたところは問題）」、自分はあまり好きではなかったです。
- ▶ ペアの人（注：ペアを組んだ人）がこななかったので、辛かった。
- ▶ 発表の時に休んでしまい、ペアの人に申し訳ないことをした。
- ▶ ありがとうございます。とても楽しかったです。

記名式アンケートであり、成績評価には影響させないと約束していても、学生はやや批判を抑えると思われる。しかし、総じて学生達は専門科目への橋本メソッド導入を、ポジティブに受け止めたようである。

3. 課題と展望

(1) 専門科目に「橋本メソッド」を導入するポイント

専門科目に導入するためのポイントとして、以下を挙げたい。

- a. 授業全体とそこでの位置づけを理解させる必要。この点、グラフィックシラバスを目指した図を毎回授業冒頭で示し、授業全体の中での位置を強調した。
- b. 基本的な参照材料は指定する必要がある。特に、誤った方法でのネット検索で得た情報に過度に依存させない必要がある。基本的な情報は指定した資料を必ず参照するように求め、その上で工夫したい学生にはプラスアルファで情報収集を行うように勧めるのが良いと思われる。
- c. 質問させるための工夫が必要である。最初、学生達はうつむいたり、なかなか反応が芳しくなかったが、次第に、自分自身がペアで発表を行う時以外にも、他のペアの発表に質問を行うことで「質問点」が入ることを意識すると、予習を行う動機付けとなる。少なくとも授業に集中するようになる。
- d. この他、教員自身が20-25分程度一気に講義を行うことと比較して、学生ペアの発表への、他学生の興味関心度合いは極めて高いと感じた。学生達のシャトルカード上の記載を見ていると、仲間の発表には強い刺激を受けるようである。

(2) 専門科目に「橋本メソッド」を導入する際の問題点

一方、専門科目に導入する際の問題点として、以下が挙げられる。

- a. 負担が重いと思込み、同時間帯の他の授業に相当シフトしている。かなりの優等生と思われる学生でも負担が重いと誤解している例がある。「橋本メソッド」の授業を履修することで、他授業での最終テストやレポート作成時期と負担が重ならない形に持って行けることなど、よりメリットを理解させる必要があると感じられる。
- b. ペアを組むのが難しいケースがある。せっかくペアを作成したのに相方が授業に出てこなくなり、ペアの組み替えを何度も行った。特に、就活を行うメンバーがはいたペア

については、ペアの信頼関係が重要である。

- c. 特定の授業だけがこのような方法に移行したのでは、学生の多くは従来型の授業にシフトするだけであろう。この点、学修成果のアセスメント・ポリシーにも関わってくる点である。DP上よりレベルの高い到達目標達成を目指そうとすれば、知識伝授あるいは知識獲得型の授業を減らす必要があることは間違いない。ただ、アクティブ・ラーニングには様々な手法があり、本手法はその一つに過ぎないとも考えられる。

(3) シャトルカード

最後に「シャトルカード」について触れたい。橋本教授の利用法を学び、「シャトルカード」にはできるだけコメントを返すように努めた。授業最後の10分間を利用して記入させるが、授業のまとめ、感想だけでなく、授業に関係することであれば何でもよく、ただし、2行以上記入しないと評価できないとした。利用してみると、双方向のコミュニケーションツールとして有効であることを実感した。ただ、その前提は、学生の書き込みに対してコメントを行うことであり、十分にコメント記入を行えていないことを考えると、効果を語ることには忸怩たるものがある。また、別途、授業内レポートを書かせた場合、それに対する評価・コメントをシャトルカードに書き込む方法は、個別のフィードバックを早める方法として有効と感じた。ただ、シャトルカードへのコメント記入は、時間との闘いであり、限界も感じた。橋本教授が常にシャトルカードを携行し、学会でも隙間時間にコメントを記入されている理由、背景がよく想像できるところである。

2018年後期「金融・経済と法」「金融危機と資本市場」(以上3年次配当)および「金融政策」でも「橋本メソッド」を導入している。問題点は少なくないが、しばらくこの方法を続けてみたい。

(注)

- (1) ライト・アクティブラーニング、橋本メソッドや後出のシャトルカードについては、橋本勝(2017)他を参照。
- (2) 橋本勝氏は、現在、富山大学 教育・学生機構支援機構 教授(教育推進センター副センター長)兼 UD Mates(学生参画型FD組織)教員代表である。
- (3) クロス円や米ドル円の先物相場の計算ができるようになることを求めている。

参考文献：

橋本勝 編著「ライト・アクティブラーニングのすすめ」(2017)ナカニシヤ出版

清水亮・橋本勝・松本美奈 編著「学生と変える大学教育」(2009)同上

清水亮・橋本勝 編著「学生・職員と創る大学教育—大学を変えるFDとSDの新発想」(2012)同上

清水亮・橋本勝 編著「学生と楽しむ大学教育—大学の学びを本物にするFDを求めて」(2013)同上

(2018.11.13 受理)